沖縄平和行進に参加して

私は今回、沖縄平和行進に参加する機会を得ました。これまで戦争の悲惨さや平和の尊さについて学ぶことはありましたが、実際に沖縄の地を歩きながら平和への思いを深めるという体験は、これまでにないほど心に強く残るものでした。

行進の途中、私たちは沖縄戦で多くの命が失われた場所や、今も米軍基地が存在する地域を訪れました。その一つ一つの場所には、過去に起きた出来事と今なお続く問題が重くのしかかっていました。地元の方々のお話を聞きながら歩く中で、「戦争は過去の出来事ではなく、今も続く影響を持っている」ということを強く実感しました。その中でも特に印象的だったのは、ある年配の女性のお話です。幼い頃に沖縄戦を体験し、家族や友人を失い、それでも「戦争を憎むのではなく、二度と繰り返さないように語り続けることが大切」と静かに語る姿に、胸を打たれました。その言葉から、悲しみの中でも希望を持ち、平和を築こうとする強さを感じました。また、全国から集まった参加者と共に歩く中で、平和を願う気持ちは世代や地域を超えてつながっているのだと感じました。共に汗を流しながら「平和を守ろう」という思いを共有することで、目に見えない強い絆が生まれたように思います。

今回の沖縄平和行進を通して私は「平和とは、ただ戦争がない状態ではない」ということに気づかされました。過去を忘れず、今ある平和を守り、未来に引き継いでいくことだと。そのためには、まず自分自身が正しく知り、考え、行動することが大切なのだと学びました。今後もこの経験を胸に、日々の生活の中でも平和について考え、身近な人と語り合っていきたいと思います。そしていつか、自分の言葉で次の世代にこの思いを伝えられるようになりたいです。

以上

全日本港湾労働組合関西地方大阪支部大正埠頭分会
青年部副部長　平澤　悠磨